鉄砲洲神社　論語素読　解説

（平成 21 年 12 月 11 日）

八佾第三

13　王孫賈（おうそんか） 問いて曰（いわ）く、其（そ）の奥（おう）に媚（こ）びんよりは、寧（むし）ろ竈（そう）に媚（こ）びよとは、子曰（しいわ）く、然（しか）らず。罪（つみ）を天（てん）に獲（う）れば、祈（いの）る 所（ところな） 無きなりと。

王孫賈というのは衛の国の実力政治家、大臣です。

王孫賈が孔子に「奥（衛の霊公）のご機嫌を取るよりは、実力のある私に近寄ってらっしゃい」と孔子に水を向けました。

孔子が言いました。

「それは駄目だ。天から罪を受けるようなことをしているのであれば、何を祈っても罪は免れることはできない」

現代に置き換えると、今の実力ある政治家は小沢さんでしょうか。中国に訪中団を引き連れて出かけたのをイメージして戴くと良いでしょう。「奥」とは内閣総理大臣です。「竈」はかまどで、自分自身のことです。ですからここは、小沢さんが胡錦濤主席に会って、「鳩山さんと仲良くするよりは、私と親しくする方が良い」（現実に私は、これだけの大訪中団を連れてきているし、昔の力のない頃と比べれば今は最大の実力者になっているのだから、私に媚びればあなたの思うように日本を動かすことができる。）と言っているようにイメージするとピンと来ると感じます。

日本の総理大臣は親から 9 億円を貰って知らなかったというのですから、これは法律違反のことをしています。小沢さんだって同じです。日本の政治家は法律違反を平氣でやって、私だけは助けてくれと祈ってもどうにもならない、と孔子が答えた部分を解釈すればよいと思います。

14　子曰（しいわ）く、周（しゅう） は二代（にだい）に監（かんが）みて、郁郁乎（いくいくこ）として文（ぶん）なるかな。吾（われ）は周（しゅう） に従（したが） わん。

二代とは、周の前、夏王朝と殷王朝です。

孔子が言いました。

「周は、夏と殷の素晴らしい制度をとって新しい礼楽制度を作っているから、素晴らしい制度ができるであろう。私は夏と殷を参考にした周の考え方に従っていきたい。」

初代が一所懸命努力して創業したものを、二代目は遊び呆けて金をなくし、三代目は潰すという話しがあります。三代目が初代と二代目を敬って、それに違背しないようにしてゆけば良いのだと読めばよろしいでしょう。

15　子 大廟に入りて、事毎に問えり。或ひと曰く、孰か鄹人の子を礼を知れりと謂うや。大廟に入りて事毎に問えりと。子 之を聞きて曰く、是れ礼なりと。

孔子が周公の廟に入って、礼儀作法に対して周りの人に指導をするということだけれども、廟に入ってみると、周りにいる係りの人達に一つ一つ細かく聞いて歩いている。これを見た（孔子に対しておもしろくないと思っている）人が、少し軽蔑したように言いました。

「鄹で生まれた田舎者の子だから、悉く周りに聞いて回っている。誰が孔子が礼儀作法に詳しいなどと言ったのか」

それを孔子が聞いて、「知っているものでも、相手を敬って、一つ一つ聞いて確認をしている。これが礼儀なのだ」と言いました。

自分の知っていることを上から押し付けるのではなく、相手の知っていることを一つ一つ尊重して聞こうとする。これが礼の最たるものだ。どうしてそこらへんがわからないのか・・・という会話です。

16　子曰く、射は皮を主とせず、力 科を同じくせざるが為なり。古の道なり。

孔子が言うには、弓とは、矢を射ることによって姿かたちや心の徳がどの程度あるかを見るのであって、皮を射抜くことを競うものではない。腕力のある人間が自然と弓を引く事はできるが、腕力のない人間は同じ強い弓を引くことができない。これは古代の斉王の教えで、人間というものは皆腕力が違うのだから、同じ一つの土俵で、力の強いものと弱いものを競わせてはいけない。心の徳を競わせれば良い。それを身体で分からせるのは、弓が一番良い。従って的の皮を射抜くことをするものではないのだ。

ここは、柔道を連想しました。柔道の始まりの頃は、小さな人間が大きな力の強い人間を制していました。その頃のことは忘れられてしまって、腕力のある者は腕力のある者同士、小柄な者は小柄な者同士、体重の重い者は重い者同士というように等級分けをしました。これは柔道の初期のものの考え方とは大分違っているのではないか。小さな人間が大きな人間を手玉にとるところがおもしろいのではないかと思います。